# 地域ネットワークだより

MBCは今年度、県や市町村などと連携して、テレビ・ラジオ・WEB・SNSなどで地域の魅力を発信し、ふるさとを元気にする集中プロモーション「MBCふるさとプロジェクト」を展開しています。

第4弾は、日本一の鰹節の産地であり、本土最南端の終着駅としても知られる港町「枕崎ウィーク」でした。

▲緑のトンネルをゆく気動車　撮影 葛岡克紀

今年は鹿児島中央駅～枕崎間を結ぶJR指宿枕崎線が全線開業して60年の節目の年に当たります。特急・指宿のたまて箱号や本土最南端の西大山駅などは全国的にも有名で、終着駅がある枕崎市は、鉄道を観光資源として見つめ直し、関係人口や交流人口の増加につなげようと「果ての鉄道展」を開催しました。

「南の果てから過去と未来へ、新しい鉄道の旅へ」をテーマにした展覧会は、写真や映像で薩摩半島の鉄道の歴史を振り返るコーナーや未来の枕崎の公共交通機関のあり方を考えるコーナーなどで構成されています。

8月21日から展開した枕崎ウィークは「果ての鉄道展」を軸に南シナ海をのぞむ美しい景色や港町としての歴史、本土最南端の終着駅として独特の雰囲気を醸し出す枕崎のさまざまな魅力を発信しました。

▲果ての鉄道展 展示風景

▲果ての鉄道展 開場セレモニー

▲1963年10月 指宿枕崎線全線開業を伝えるニュース映像

かごしま4 KAGOSHIMA YON

テレビは「かごしま4（月～金／午後3時49分～）」で展覧会を特集したほか、「あの日のふるさと（月～金／午後6時55分～）」は歓喜に沸いた60年前の指宿枕崎線開業日や1987年の全国豊かな海づくり大会などのアーカイブ映像を放送しました。またラジオでは「城山スズメ（月～金／午後1時30分～）」に展覧会関係者や県内の鉄道ファンに電話インタビューで生出演いただきました。

なお、「果ての鉄道展」は10月31日まで枕崎市文化資料センター南溟館で開催されています。

▲あの日のふるさと　全国豊かな海づくり大会 1987年10月

今回の枕崎ウィークをはじめこれまでのMBCふるさとプロジェクトの取組みはMBCホームページで見ることができます。

〔MBCふるさとプロジェクト〕

ふるさとたっぷり MBC南日本放送 70th

# 和泊町・夏休み ワクワク ラジオ工作イベント

夏休み最後の週末となった8月26日、沖永良部島の和泊町で小中学生を対象にしたラジオ工作教室が行われました。

これは子どもたちに電波や科学に興味を持ってもらおうと、和泊町が企業版ふるさと納税を活用した理科教育プログラムの一つとして初めて企画したもので、MBCはその運営を担当しました。

▲左：MBC中野寿康社長

会場には島内から20名の児童、生徒とその保護者が集まりました。今回、ラジオ工作教室の講師を務めたのはMBCの中野寿康社長です。

▲右から2人目：工作を見まもる前(すすめ)和泊町長

▲初歩のラジオハンドブック

▶基盤に部品をはんだづけしていく

中学時代を和泊町で過ごした中野社長の当時の愛読書は、親から贈られた「初歩のラジオハンドブック」だったそうで、挿絵の回路図を見ながら実験や試作を繰り返し、海を越えて電波で音声が伝わるラジオの魅力にひかれたという原体験を紹介しました。

この後、ワイドFMラジオの組み立てキットを用いて30個ほどの部品を基盤に「はんだづけ」しました。

児童、生徒はもちろん、はんだごてを使うのは初めてという保護者も多く、最初はとまどう姿も見られましたが、しばらくするとコツをつかみ、親子や友達同士で教えあいながらラジオ工作に取り組んでいました。

組み立てが終わると、スピーカーに耳を当てダイヤルを回しながら選局していきます。音が聞こえた瞬間、ガッツポーズをしたり、喜びあう家族の姿が見られました。

工作の後はラジオ放送局体験です。70年前の1953年12月25日、奄美群島の日本復帰を祝う式典を実況したMBCのラジオ放送の原稿を児童に朗読してもらい、ミニ送信機で放送しました。その声が作ったばかりの自分のラジオから流れてくると、子どもたちは真剣な表情で耳を傾けていました。

▲左：MBC豊平有香アナウンサー

▲完成したラジオに耳を傾ける

今年は1993年の豪雨災害から30年にあたることから、日ごろからテレビやラジオで気象情報を伝えている県内全放送局の気象予報士が集結したトークイベント「8・6豪雨災害から30年　気象キャスター大集合!」を開催しました。

## 【豪雨災害を語り継ぐ】

1993年は、6月26日の姶良市のがけ崩れに始まり、7月7日、8月1日、8月6日 の集中豪雨とその後の台風などにより、死者行方不明者121人に上る災害の年となりました。トークショーは、あれから30年が経過し、災害を知らない世代も増えていることから、日ごろから放送で防災情報を伝えている気象キャスターが局の垣根を超えて災害を語り継ごうと企画したものです。

▲会場の「よかど鹿児島」

## 【30年前被災したMBC】

まず、災害を振り返るVTRを視聴した後、当時を知るMBCの亀田晃一予報士と住吉大輔予報士が、甲突川沿いにあるMBCは氾らんによって1.5メートルほど冠水し、ラジオの中継車が全て水没したこと。取材班が胸まで泥水につかりながら出ていったこと。安否情報など災害放送を終夜続けたことなど、自らの体験談を語りました。

▲大山　有布佳

▲増永　吉亨

▲鮫島　薫乃

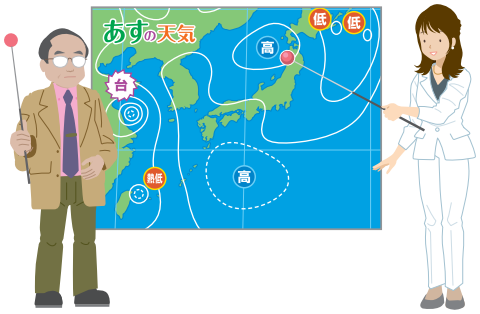
▲亀田　晃一

▲住吉　大輔

各局から気象予報士が集まった初めてのイベントでしたが、多くの方に来場していただきました。MBCは各局で最多の5人の気象予報士が在籍し、気象庁の許可を得た予報業務許可事業者という顔も持っています。今後も災害時には命を守る情報を、平常時には気象に関心をもっていただけるよう、分かりやすい解説をお届けしていきます。

## 【防災についてのキーワード】

この後、各局の予報士が防災に関するキーワードを一つずつ紹介しました。NHKは「こわがりヒーロー」、MBCは「正常性バイアス」、KYTは「まずは自分」、KKBは「早めの行動」、KTSは「キキクル」です。MBCは人が前に進むために必要な「正常性バイアス」という性質が、防災の観点では避難行動を妨げマイナスに作用してしまうことをお話しました。



# かごしま4 各地のメディアが情報発信

テレビ番組「かごしま4（月～金／午後3時49分～）」で放送した
各地のメディア発の話題です。

## 伝統をつなぐ田之浦小の子ども神楽

### BTVケーブルテレビ　志布志レポート（8月21日放送）

志布志市田之浦の山宮神社では古くから神楽の奉納が行われており、地域の人たちは「神楽の里　田之浦」として地域文化の伝承に力を入れています。田之浦小学校の児童たちも毎年夏祭りで奉納しており、この夏も全校生徒28人がグループに分かれて、幣舞（ひまい）、児鬼神舞（こきじんまい）、巫女舞（みこまい）、岩戸潜り舞（いわとくぐりまい）を奉納することになりました。放課後や夏休みを使って練習を重ね、7月29日の本番に臨みました。

元気いっぱいに体を動かして舞い終えた児童たちは、ほっとした様子で、幣舞を担当した梅沢土筆さんは、「神様に喜んでもらえる舞をずっと続けていきたい」と話していました。

## 4年ぶりに開催！種子島・鉄砲まつり

### タネナンダTV（8月31日放送）

1543年に種子島に鉄砲が伝わってから今年は480年目にあたります。これを記念して西之表市では8月19日、「鉄砲伝来480周年　全国火縄銃大会」が開かれました。堺（大阪）、長篠・設楽（愛知）、秋月（福岡）、米沢（山形）、国友（滋賀）など、全国各地から12の火縄銃保存会が来島し、地元からも3団体が参加。各保存会がそれぞれの作法に則って一斉射撃を披露すると、ごう音が響き渡っていました。

翌20日は4年ぶりに「鉄砲まつり」も開かれました。このうち八坂神社では高さ2メートルほどの大きな神輿が市街地を練り歩く太鼓山行列がありました。豊漁などを願って明治の初めに始まった祭りで、最大の見どころは市の中心部を流れる甲女川（こうめがわ）を担いで渡る「川渡り」です。白装束の若者たちが、勇壮な掛け声とともに神輿を担いで幅30メートルほどの河口を渡ると、見物客からは大きな歓声があがっていました。

## ブラジルの鹿児島県人会

### Helloかごしま！NY通信（9月4日放送）

「かごしま4」にはニューヨーク在住で奄美大島出身の栄秀吉さんが、定期的にニューヨークの話題を伝えてくださっています。今回はNY奄美会の会長として、ブラジル・サンパウロ市で開かれた鹿児島県人会創立110周年記念式典に参加した様子をレポートしてくれました。

1913年に発足した県人会には、現在1,700世帯が加入しており、8月6日に開かれた式典には、塩田康一県知事を始めとする県の関係者や近隣国の県人会の代表などを含め約600人が参加しました。鹿児島県人のブラジル移民は1908年に始まり、戦前・戦後を通じて約1万7000人が移住しました。南さつま市、枕崎市に次いで移民者が多い宇検村では、出身者の寄付で湯湾集落に「ぶらじる橋」が架けられたり、里帰り交流が行われており、出身者は今も故郷と深く結びついています。

宇検村出身者の懇親会に参加した栄さんは、移民一世たちの苦労話に耳を傾けたほか、宇検村出身の玉利繁弘さん（80）が営む市内の鮮魚店を訪れるなどして、日系移民の活躍を肌で感じていました。


ふるさとたっぷり MBC南日本放送 地域ネットワーク部
編集人：水野 俊彦
TEL 099-254-7165
メール：r-net@mbc.co.jp
FAX 099-254-7009
〔MBCふるさとプロジェクトHP〕